伊東市立木下杢太郎記念館第38回特別展

新発見資料

太田正雄（杢太郎）の書簡

―出張先から家族へ―

日時　令和６年３月１２日（火）～５月１２日（日）
午前９時～午後４時３０分（月曜日休館）
※３月中は午後４時まで

会場　伊東市立木下杢太郎記念館
〒414-0002　伊東市湯川二丁目１１－５

電話　０５５７－３６－７４５４

太田正子宛絵葉書：バンコク・マハナーク市場の風景

太田正雄（木下杢太郎）は、大正１３年９月、ヨーロッパ留学から帰朝後、県立愛知医科大学（現名古屋大学）、東北帝国大学、東京帝国大学で教授を務め、真菌学はもとより、痣やハンセン病の研究において卓越した業績を残しました。また東北帝国大学及び東京帝国大学時代は日本皮膚科泌尿器科学会の重鎮として、国内外の様々な重要な会議に出席しています。今回展示する書簡の出張先は次の通り４箇所であり、いずれも重要な会議です。

〇極東熱帯病学会・国際連盟癩会議に出席のため、バンコクに出張。さらにマニラへ廻り国際癩委員会に出席。（昭和５年～６年）

〇満州医学会総会出席のため満州（長春・奉天）に出張。（昭和７年５月）

〇日本皮膚科学会総会出席のため札幌に出張。（昭和７年７月）

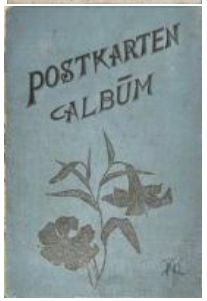
そのような多忙な中にあっても、こまめに家族宛の手紙を出しています。これまでそれらはごく一部しか発見されていませんでしたが、この度、太田家より東北帝国大学時代の書簡及び絵はがき計２２通の寄贈を受けました。いずれも新発見資料です。

当時、太田正雄の自宅は仙台市光善寺通り四番地にあり、妻の正子、長男の正一、次男の元吉、長女の昭子、それと当時仙台の第二高等学校に通っていた杢太郎の兄賢治郎の三男嘉四夫と暮らしていました。書簡はこのうち昭子以外の四名に宛てられたものであり、絵はがきが２１通、書簡（正子様宛）が１通です。絵葉書の内訳としては、正子宛７通、正一宛７通、元吉宛５通、嘉四夫宛２通です。注目すべき点は発達段階に応じて、字体や内容に配慮していることです。まだ幼い元吉宛のものはきっちりカタカナの楷書で丁寧に書いてありますが、正子宛のものになると崩し字で書いています。内容も専門的な会議のことにはほとんど触れず、行程・町の印象・食べ物・天候等々身近な話題を中心に書いています。医学者・太田正雄の人となりの一端を知ることのできる貴重な資料です。

展示のみどころ

書簡・絵葉書等とともに、当日の日記、知友との書簡でのやり取り、行程を視角化した地図、家族写真、会議の報告（雑誌）等も併せて５３点ほど展示し、内容を総合的に理解できるようにしました。

〇書簡（１通）、絵葉書（計 21 通）‥‥‥。絵葉書には出張先各地の特色の窺える写真がプリントされています。太田正雄の文面の読み下し文も併せて展示いたします。



〇正子の葉書保存用アルバム‥‥‥ 縦 17.5cm、横 12cm の蛇腹型アルバム。裏表紙に Msako kawai の筆記体のサインがあります。独身時代に愛用していたものと思われ、差し込み式で計 100 枚をストックできます。今回展示の絵葉書等はこれに収められていました。

〇太田正雄「バンコツク（ママ）及びマニラに於ける国際癩會議報告書」及び雑誌（「東京医事新誌」）記事（４点）‥‥‥国際癩学会設立の経緯や癩に関する知見、癩の治療に関する世界の趨勢、「シャム及びフィリッピンに於ける癩療養所」の見学記録等々が、太田正雄の執筆によりまとめられています。

〇雑誌「體性」昭和七年八月号‥‥‥７月１６日～１８日に北海道帝国大学医学部講堂にて開催された第３２回「日本皮膚科学会総会」の記録記事が掲載されています。当時は皮膚科と泌尿器科が分離されていなかったため、この会議では性病のことが大きく取り上げられています。東北帝国大学教授・太田正雄もこれに参加しています。